

日本消化器外科学会雑誌編集後記

本学会誌の編集委員を2010年9月に拝命し、既に2年半が経過しました。その間にさまざまな論文を査読して遺憾に感じたことは、指導医の校閲を受けずに投稿される論文があることです。校閲された論文には重大な問題は見受けられませんが、そうでない場合に内容的な問題はともかく文章があまりに稚拙で困惑せざるをえないことがあります。若手の登竜門的な雑誌であることや多忙な一般病院からの掲載が多いことも理由の一つであろうと思われます。しかしながら、大学病院でありながら教育的な指導の成果が感じられない投稿論文もあります。投稿論文に対する責任を指導者が十分に感じていない施設が存在することに残念至極でございます。私自身としては覆轍を踏まない気持ちで編集作業および若手医師の育成に努めていく次第であります。

世間では2012年12月に誕生した安倍晋三首相が新内閣を「危機突破内閣」と命名し、経済の再生強化を筆頭に被災地の復興、外交問題、憲法改正などを政策の骨子に掲げ、新政府が発足しました。安倍首相は大胆な「金融緩和」、機動的な「財政政策」、民間投資を喚起する「成長戦略」という「3本の矢」で、喫緊の課題であるデフレと円高からの脱却による経済の再生を図っています。そして安倍新総理の経済政策、いわゆるアベノミクスがうまく点火され、急速な円安・株高が進行し、想定以上の効果をもたらしています。つまりヨーロッパのギリシャやキプロスなどの欧州債務危機はいまだ予断を許さず、その状況を鑑みた場合に経済の再生は必須であり、第2次安倍内閣への期待が高まっていることでしょう。さらに昨今では北朝鮮の弾道ミサイルや中国の地震などの外交問題、TPP(環太平洋経済連携協定)への参加、憲法改正などの多くの課題を抱えております。第2次安倍内閣は、第一次内閣で学んだ教訓を生かし安定した支持率も獲得しており、最近の首相と違い長期政権を期待しております。政治に限らずどの業界においても、信念を持ったリーダーシップを発揮することの重要性を示していただきたいと思う次第であります。

最後に、近年の若手外科医減少が深刻化する中で、「外科医志望者を増やす対策と提言」を多くの学会で企画し、外科医のイメージアップ、若手のモチベーションアップなどが図られています。この問題を打開するには医師および政府が一体となり取り組んで行く必要があります。そうでなければ日本の医療崩壊にも繋がる可能性を秘めているでしょう。まさに卓越したリーダーシップの誕生はもとより、日本の将来を鑑みて国民一人一人の意識改革と気概が必要な時代を迎えていると実感しております。

(加藤 広行)

2013年5月1日